

要領様式第2号

出張報告届

令和 2年 3月 5日

吹田市議会議長 吉瀬 武司 様

会派名 市民と歩む議員の会

出張者氏名 池 淵 佐知子



..... (印)

..... (印)

..... (印)

..... (印)

..... (印)

..... (印)

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出張先	熊本城 城彩苑 (多目的交流施設) 熊本県熊本市中央区二の丸1-1-1		
期間	令和2年1月23日から 1月24日まで 2日間		
出張の成果	別紙のとおり		
備考		認 印	会派代表者



研修レポート

1. ローカル・マニフェスト推進連盟研修会 in 熊本
「実体験から学ぶ災害時の問題と備え」
2. 令和2年(2020年)1月23日(木)24日(金)
3. 桜の馬場城彩苑 多目的交流施設(熊本市中心区二の丸1番1)
4. 内容

<1日目(1月23日)>

1) 基調講演

「地方議会は災害から住民を守る備えをしているか

北川正恭氏 (早稲田大学名誉教授 早稲田大学マニフェスト研究所顧問)

2) 報告

「弁護士が語る発災後の住民課題～住民相談から解く自治体の備え～」

伊藤英範弁護士 鹿瀬島正剛弁護士(熊本県弁護士会 災害対策委員会)

「議会BCP全国事例とICT活用」

西川裕也 (早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員)

「熊本地震を振り返って～地方議会への提言～」

大西一史 (熊本市長)

3) パネルディスカッション「災害時の議会・議員活動」

川上文浩氏 (可見市議会議員 ローカル・マニフェスト推進連盟共同代表)

黒川 勝氏 (横浜市議会議員 ローカル・マニフェスト推進連盟共同代表)

北川正恭氏 (早稲田大学名誉教授 早稲田大学マニフェスト研究所顧問)

<2日目(1月24日)>

4) 報告

「罹災証明発行の課題と備え」

東 真波氏 (熊本市健康福祉局福祉部健康福祉政策課)

「女性の視点から見た災害時の避難所運営の問題と次への備え～熊本地震の経験から」

藤井宥貴子氏 (くまもと県民交流会バレア館長)

「データから読み解く住民行動と住民ニーズの真実～yahooデータ解析より～」

中村 健氏 (早稲田大学マニフェスト研究所事務局長)

「大分市議会の災害対応～議会BCP～」

野尻哲雄氏 (大分市議会議長)

5) 総括

北川正恭氏 (早稲田大学名誉教授 早稲田大学マニフェスト研究所顧問)

5. いけぶちメモから抜粋

1) 北川氏のお話

・大分市議会のBCPは、議員一人ひとりではなく、議会として話し合い、議長、事務局長がしっかりしたので、できた。地方議会は執行部に要望ばかりせず自立、自律していただきたい。民意の代表は議会であり、執行部ではない。

・熊本県弁護士会の活動について、弁護士会は災害のことを一生懸命されているので、議会が先取りをしてほしい。

2) 報告

(1) 弁護士会

・災害ケースマネジメントは、誰一人取り残さないためのものである。

・行政の手続きは申請主義なので、申請に来ることができない方、申請しなかった方も取り残さないようにしたいと考えた。

・災害ケースマネジメントを鳥取県が条例化している。他の自治体も同様の条例を作っていただきたい。行政がすべてを引き受けることはないので、行政が責任をもって受付、整理し、あとは弁護士や専門家を活用して、らせていただきたい。

・弁護士会ニュースを発災後、発行し、情報提供に努めた。

・被災ローン減免制度は有用な制度だが、弁護士も知らなかったこともあり、皆さんにも知ってほしい。

・発災後 3 か月間で 8 千件余りの電話相談があり、面談相談も千件ほどあった。発災直後は近隣との関係が多く、その後ローンの相談に変わっていった。

・災害対策法ができると、債権の全額免除があり、また破産してもブラックリストに載らない。

(2) 大西熊本市長

・まだ熊本市内でも 850 世帯が仮設住宅にいらっしゃる。

・町中、結構元気ではないかと思われるかもしれないが、これまでがたいへんだった。

熊本城の小天守の修復が来年完了する。熊本城全体を地震前の姿にもどすまでに 20 数年かかる。石垣は文化財なので石 10 万個を全部ナンバリングして、寸分たがわずはめ込んでいく必要があり、概算 634 億円かかる。

・災害が起ってから、前におけばよかったと思うことがたくさんある。例えば熊本城はもともと耐震性に問題ありとされており、5 年ほど前に耐震工事をしてはどうかとの話があったが、耐震工事中は見学していただけないので、ラグビーなどの国際試合を終えてからにしようと考え、耐震工事をしていなかった。また、市民病院の建て替えもしなければならいので、財政上の問題として熊本城の耐震工事を後回しにしていた。

・首長は財政的にどうなのか、ということを見ないで、熊本城の耐震工事を先にするとい

う判断ができなかった。しかし、議員は、財政的なことはさておき、重要だと思うことについては意見を言っていたきたい。

・同じ災害はないので、いろんな状況を学ぶ必要がある。職員にも体験しておいてほしいと考え、例えば、北海道のブラックアウトの状況を学ぶため職員を派遣した。

<熊本地震を体験して>

・職員参集通知はLINEを使っている。既読にもなるし、返事も来る。
・支援物資はたくさん届いたが、パレットに載っていないので、トラックからは人海戦術でしか下せなかった。

・避難所136か所あったが、25か所は開設できなかった。(震災被害のため)
・福祉避難所に押し寄せる一般避難者の対応に苦慮した
・外国人に情報が伝えられなかった。今は国際交流センターから多言語で伝えるようにしている。
・ペット問題 避難所でトラブルになり、その後、災害公営住宅でもトラブルになる。ペット可能の公営仮設住宅を他の住宅から離してつくった。
・学校の普通教室のエアコンを全教室に設置。ガスで動くようにしており、非常時には電源として使えるようにした。

・議会は委員会室を避難所として開放した。
・議員として、地域、市民の方にどんどん聞いて回っていただき、議会としてまとめて災害本部に届けていただくのが役割。一つとして同じことが起こらない災害だけれど、同じこともあるので、持ち寄って議論していただきたい。
・本庁舎は新耐震前の建物であるが耐震性はあるといわれていたが、震災後調べると耐震性がなかった。最悪の事態を想定しながら、庁舎内の職員の命を守るのではなく、市民サービスの拠点を守るのだということで、市役所の再建(建て替え・新築)を検討している。

3) パネルディスカッション

(1) 可児市議会議員 川上氏

・発災後、FM放送に割り込み、情報提供できるようにしている。
・議会4役で本部を作り、議会運営委員会が会議体となることを決めている。
例えば台風の場合、執行部より台風の進路予想図が各議員にメール配信されるようになっている。
・執行部がタイムラインを作ったら、議会にも送るよう、委員会代表質問で提案し、すぐ実施となった。
・熊本市への視察報告会を、議場で行い、事業者や市民にも来ていただいた。
・熊本地震で学んだこととして、4日間の物資を自分たちでリュックに詰めておくこと。男性も生理用品やミルクなどもいれてもらった。

(2) 北川氏

・議員が勝手に言うのは良いが、程度がある。議会がまとまって一元化することが大事。

・女性職員が災害後、パブリックとプライベートとどうしていたかを検証してみようということで、50人ぐらいの女性職員から話を聞いた。

・議会も予算を議決した責任があり、市民は市長を選んだ責任がある。

・久慈市は、地震の後水害もあり、議員たちは自費でiPadをそろえて対応した。

・執行部は何事も公平にしないといけないのでできないこともあるが、議員だとできる。

4) 報告

「罹災証明発行の課題と備え」

・市に罹災証明のシステムがあるか、マニュアルがあるか

罹災証明のシステム運用費

熊本市昨年度の予算3,000万円で罹災証明は74件。この費用対効果をどう見るか

熊本市は5ライセンスの契約で、5つの区役所にそれぞれ置いている。

・様式の全国統一化を国に要望している。統一になれば、支援に行った他の職員も扱える。

・罹災証明の一部損壊の中に支援対象(準半壊)とそうでないものがあるので、罹災証明の様式の表記を変えれば、区別できるようになる。

「女性の視点から見た災害時の避難所運営の問題と次への備え～熊本地震の経験から」

・避難所等での性被害

性被害にあわないために、またもしあった時の相談窓口について記載したチラシを急ぎ作り、配布した。

女性トイレに、相談などを受け付けるボックスを置いた。発災後1週間ぐらいは、通常の相談や要望が入っていたが、その後、性被害(未遂も含む)の相談がはいるようになった。

全国の女性会館協議会のネットワークで、情報収集、どうすればいいのかの知恵をいただいた。

・避難所運営がうまくいっていたところは、リーダーは自治会長経験のある女性であった。

子どもたちの声がうるさいという高齢者からの苦情を聞き、だれもが昼間集まれるようなスペースを作った。

「データから読み解く住民行動と住民ニーズの真実～yahoo データ解析より～」

・クックパッドの検索キーワードにより避難者が得たい情報がよく分かった。

最初の検索トップキーワードはご飯の炊き方。その次は粉を使ったもの(米粉パン、ホットケーキミックス)

・検索サイト yahoo による検索データも参考になる

発災後すぐの検索ワードトップは避難所、少し落ち着いたら炊き出し

熊本地震後の yahoo 検索で、セブンイレブン、水道、ガスが多かった。検索ワードとしてよく出てくるのは、行政の情報が不足している表れである。

ここからわかることは、避難所情報は行政の HP にあっても住所やアクセスが記載されていない

ことがあるということ。

また、公衆電話がつながりやすいということであるが、公衆電話がどこにあるのかの情報が検索できるようになっているかどうか

外国人向けの情報が英語版であるかどうか。音声読み上げソフトを入れておくとよい。

災害時、即時に検索データが行政に提供されるようにしておけば、災害時の情報提供に活用できる。熊本市はyahooと連携協定を結んでいる。

5) 総括 北川氏

議会とはこんなもんだという認識、役割が変わってきた。

災害時、議員は民意の反映だから意見を言うことは必要。他の議会とも連携していただきたい。

政策提案するには、議員、事務局だけではだめ、専門家、弁護士もおくなど、議会事務局と協力してワンチームでやっていかないといけない。

国が決めた地方創生ではやらされ感いっぱいになってきている。5年間経ったので第3期地方創生の見直しができたのは、今までフォアキャスティングであったが、これからはバックキャスティングであるべきだということである。

6. 感想・考察

2日目のオプションとして熊本城の現地視察があり参加しました。

市長が20年にかかるという工事期間中、この時でないと思えないところを見ていただくという取り組みで、工事の様子を横から、上から見えるルートを造っていました。石積みの奥にある石積みは、今でなければ、見る事ができないそうです。石はナンバリングされて保管、材木も倉庫に保管されており、シロアリなどの駆除を定期的に行っているとのことでした。

災害により失われたものは多く、復興のために必要とされる時間と費用と人と、これらはとても大きなものです。

今回、熊本の現地で実際の災害時、復興のお話をお聞きすることができ、また、先進的な取り組みをされている議会のお話を聞くことができ、とても有意義でした。

大分市議会のBCPの資料については、吹田市の防災・減災等対策特別委員会の議論に参考にさせていただければと思います。

災害時に情報がとても重要だということもよくわかりました。今後の議会質問、活動に活かしていきます。

以上